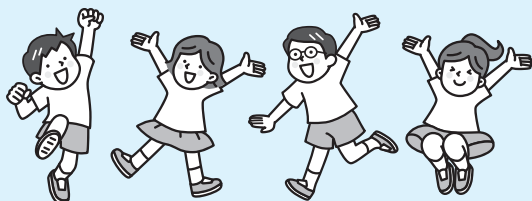


# 総務産業常任委員会所管事務調査

(1) 富山県朝日町「ライドシェアの取り組みについて」

(2) 富山県舟橋村「地方創生プロジェクトについて」



令和7年10月27日、29日、総務産業常任委員会所管事務調査として委員7名、議会事務局2名の計9名で、富山県朝日町及び舟橋村での道外視察を行いました。視察内容は、朝日町では「ライドシェアの取り組みについて」、舟橋村では「地方創生プロジェクトについて」であります。

**(1) 富山県朝日町役場「ライドシェアの取り組みについて」**

◆朝日町の概要（人口1万636人、面積227.41km<sup>2</sup>）

朝日町は、富山県の東端に位置し、東は新潟県、長野県と接し、西は入善町、南は黒部市、長野県と接し、北は海岸線9.45km、日本海に面し遠く能登半島を望む。東南は標高2千418mの朝日岳に始まり、2千932mの白馬岳を主峰とする北アルプス連峰がそびえ、気候は比較的温暖で多雨多雪であり、山岳地帯は、杉、松、落葉

樹などの木材資源が豊富。

○視察の概要

(1)住民参加型「ノッカルあさひまち」、予め登録したドライバーが、送迎を主目的とせず、出かける時、ついでに「ノッカル」システム。「気軽に乗れる、手軽に使える、だからみんな助かる！ノッカルあさひまちは、住民同士の助け合いが支える公共交通サービス。」

(2)マイナンバーカードを活用した地域活性化

○委員会所感

朝日町においては、国の動向を踏まえ町民・職員が一丸となつて事業に取り組まれている。そうした中、本事業は町の立地条件が事業の推進を可能としており、人口1万人で医療・生活分野のあらゆる面が町の中心で対応可能な点である。このためノッカル事業は町内移動限定でもその効果は

ある程度達成できる。ライドシェアと地域公共交通についてうまく考えられているとともに、持続するためにはそれぞれが過度な使命感や義務感を抱かないようにあくまで地域共生を主体とした仕組みが構築されている。

一方、当町においては医療・買い物等の多くは町外に依存している状況から、視察内容の仕組みでは成果は得られにくいと考えられる。しかしながら、町民が助け合いながら生活を維持し続ける点については十分参考となった。今後益々高齢化・人口減少が続き、加えて公共交通の利便性が悪化することも予想されることから、将来に向けた交通インフラの検討は必須と考える。

また、マイナンバーカードを利用した「ノッカルあさひまち」については、地域通貨の運用による地域経済の活性化に加え、子供達や高齢者の見守り

**(2) 富山県舟橋村役場「地方創生プロジェクトについて」**

◆舟橋村の概要（人口3千328人、面積3.47km<sup>2</sup>）

富山平野のほぼ中央に位置し、全国で最も小さい自治体であり、北陸唯一の「村」であり、村内中央には富山地方鉄道が走り、富山市中心部へ約15分でアクセスすることができ。この恵まれた



機能を兼ねており、過疎化が進む当町において安心な町づくりに向けて大いに活用できると思われる。